

令和7年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告関係様式

都道府県名	14_神奈川県
市区町村名	14362大井町
自治体区分	都道府県

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために令和7年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和6年度における取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位の単位	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析（事業における成果、課題、改善点等）	目標等の公表先
14362大井町	①学校運営上の課題	01 教職員の時間外勤務の是正	様々な働き方改革を進めているものの、月45時間以上の時間外勤務を行っている教員は48%から47%となり、減少は昨年度1%に留まった。教員の負担軽減できる効果的な支援をしていく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> これまで地域学校協働活動推進員の8月の勤務がなかったが、8月の勤務日を2回設ける。 教職員への聞き取りやアンケートから地域学校協働活動推進員の周知や活用への認識を把握し、より効果的な支援を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 推進員の出勤日と教員の勤務日が合わず、連携できないことがあった。また、教員も子どもがいる時だとゆっくり時間を取ることが難しいのが現状である。そこで、夏休み中の8月にも推進員の勤務日を設け、教員と推進の連携の機会とする。 教員の推進員の取組のニーズや実態、周知度を知る機会とするため、負担にならないような教員への聞き取り調査を行う。 	学校・家庭・地域の役割分担の明確化により、地域との協力が進み、教員の業務負担が軽減する。	月45時間以上の時間外勤務を行う教員の割合（アンケートを行った場合は、教員の周知や活用の割合も図る指標となる）	47	%	45	32	<p>04 本年度の目標値を上回り、課題の解決に向けて大きな成果が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> PTAや地域住民が教員の働き方改革への理解があり、これまで学校が行ってきた対外的な業務の見直しが進んだ。 教員の勤務時間の是正に関しては、複合的な要因であり、地域学校協働活動推進員の活動だけで達成できるものではなく、必ずしもこの活動だけで目標が達成できているわけではない。 働き方改革を意識するあまり、教員から推進員の活動が見えなくなってしまうことも課題である。教員への周知、連携は今後さらに進めていく必要がある。 	https://www.town.oi.kana.gawa.jp/soshiki/16/chiki/gakkokuyodokatudosuishini/igvo.html
14362大井町	②学校と地域の課題	03 学校支援ボランティアの確保・育成	学校支援ボランティアに参加する方々が年々増加している。また、広報などの募集から保護者以外の学校支援ボランティアの参加も増えてきた。今後さらに地域の教員をめざす大学生や地域のお年寄りの参加を増やしていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> スマートフォンを推進員に一人一台から貸与し、学校支援ボランティアの連絡などに活用できるようにする。 地域学校協働活動推進協議会を通して、ボランティアの状況やスマートフォンの活用の仕方を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> これまで推進員からボランティアの方への連絡手段が個人のスマートフォンであり、推進員の負担が大きく課題であった。そこで、町から貸与することで、電話番号を名刺に記したり、LINEを使って連絡をしたりすることができる。 推進員の中には、スマートフォンの活用が苦手な方もいるが、同じものを使うことで、使い方の共有がしやすくなる。また、推進員が変わってもボランティアの連絡先をそのまま引き継ぐことができる。 	幅広い地域住民が活動に参加し、地域で子どもたちを育てる意識を醸成する。	地域学校協働活動に参画する地域住民の年間延べ人数	111	人	120	104	<p>02 本年度の目標値を下回り、取組の工夫が求められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度より参加人数は少なくなったが、どの学校でも幅広い地域住民の参加があった。また、今年度新規に参加する方もおり、一定の成果はあった。 今年度、町から推進員にスマートフォンを貸与したことに合わせ、参加者にボランティア登録カードを記入していただいた。それを町でまとめることで、その情報を各校の推進員で共有するし、今後地域人材の活用を広げていく。 ボランティアの参加人数が増えることで、推進員の業務の負担も大きくなるため、ただ増やすだけでなく、研修会などの人材の育成や交流の場をつくるようにする。 	https://www.town.oi.kana.gawa.jp/soshiki/16/chiki/gakkokuyodokatudosuishini/igvo.html

※行が足りない場合は、非表示になっている行を再表示してください。